

2年生春学期

分野	学 科 目	講義科目		演習科目		実習科目		計	
		単位	時間	単位	時間	単位	時間	単位	時間
基礎	造形学	1	15					1	15
基礎	コミュニケーション論	1	15					1	15
専門基礎	顎口腔の機能	1	15					1	15
専門基礎	顎口腔の機能(実習)					1	45	1	45
専門基礎	口腔の病理	1	15					1	15
専門	歯冠歯列の保存・修復	2	30					2	30
専門	歯冠歯列の保存・修復技工	3	45					3	45
専門	歯冠歯列の保存・修復技工(実習)*					4	180	4	180
専門	小児歯科の技工	1	15					1	15
専門	小児歯科の技工(実習)					1	30	1	30
専門	矯正歯科の技工	1	15					1	15
専門	矯正歯科の技工(実習)					1	30	1	30
専門	歯科技工の総合示説*			1	30			1	30
専門	有床義歯の歯科技工(実習)*					1	45	1	45
2年生 春学期 計		11	165	1	30	8	330	20	525

* 通年科目

造形学

担当者	歯学部 助教 尾関 創 歯科技工専門学校 講師:徳田幹也(非)		単位数 (時間数)	1 (15 時間)
主な講義場所	薬学部棟 3F 第 2・3 講義室		時間割番号	201S1102
【目的】(GIO) 歯科技工では物を表面的に表現するだけでなく質感や量感を与えながら立体的に表現することが大変重要である。 歯科技工に必要な美的感覚(色彩・形態)を養うためにデッサン、絵画、彫刻および工芸(造形美)を創造する。				
【テキストおよび参考書】 教科書『最新歯科技工士教本 歯科技工造形学』全国歯科技工士教育協議会 編集 医歯薬出版				
【講義の方法・形式】 講義室で教科書(参考書)、板書および画像提示により講義をおこなう。(前半 4 回) 主として講義室あるいは実習室にて描画を行う。(後半 4 回)				
回	日時	講義項目	講義内容・到達目標(SBOs)	担当者
1	4/8 13:00-14:30	審美歯科	自然美と人工美について説明できる。 歯科における形態美、機能美および色彩美が説明できる。	尾関 創
2	4/15 13:00-14:30	歯の形態の理解 歯の色と色彩	歯の形を正確にとらえ、明度、立体感および材質感の関係が説明できる。 歯・歯列のプロポーシオンについて説明できる。 歯冠、歯周組織の形や色に関する観察の要点が説明できる。 色彩理論の基本、臨床応用の要点が説明できる。 天然歯の色、測色法が説明できる。	尾関 創
3	4/22 13:00-14:30	顔の観察	口元および顔面の解剖学的根拠の必要性を理解し、説明できる。 口元と顔面の調和に関する観察の要点が説明できる。	尾関 創
4	5/13 13:00-14:30	歯科臨床への応用	審美歯科、審美歯科技工の観点から臨床例における観察および認識の要点が説明できる。	尾関 創
5	5/20 13:00-14:30	スケッチと着彩-1	石のデッサン(鉛筆) 自然石の形態を正確に把握し、質感や量感を的確に表現できる。 全体のプロポーシオンと細部の関係性を理解し、描写できる。	徳田幹也
6	5/27 13:00-14:30	スケッチと着彩-2	明度(明暗)と立体感の関係性を理解し、描写できる。	徳田幹也
7	6/3 13:00-14:30	スケッチと着彩-3	手・拳のデッサン(色鉛筆) 手・拳の形態を正確に把握し、質感や量感を的確に表現できる。	徳田幹也
8	6/10 13:00-14:30	スケッチと着彩-4	全体と細部の関係性を理解し、描写できる。 色の三属性を理解し、肌の色彩を描写できる。	徳田幹也
【評価方法】 定期試験と授業態度を総合的に評価する。				
【留意事項】 講義内容の把握、復習を怠らない。日頃から美術館巡りや画集等を見て、審美眼を養う。				
【授業以外の学習方法】 積極的に図書館等で関連する書を読み調べる。講義時間以外にも随時対応するので、気軽に質問してほしい。				
【連絡先】 尾関 創 h.ozeki@dpc.agu.ac.jp 徳田幹也 担任へその旨を申し出る。(各授業の前後)				
【オフィスアワー】 尾関 創 月～水・金 17:00～18:00 末盛キャンパス臨床教育研究棟 4F 冠・橋義歯学講座 徳田幹也 質問等は授業の前後あるいは専任教員(担任)を通じて対応します。				
【実務経験】 尾関 創 歯科医師 徳田幹也 有				

コミュニケーション論（講義）

担当者	短期大学部 講師 鈴木一吉、歯学部 助教 橋岡和子(非)	単位数（時間数）	1（15時間）	
主な講義場所	薬学部棟 3F 第2・3講義室	時間割番号	201S1206	
【目的】(GIO) 対人コミュニケーションのスキルを学ぶことにより、患者の健康を回復、保持および増進するために、歯科医師や歯科衛生士をはじめとする医療専門職との間で円滑な双方向的コミュニケーションの実践を目的とする。 患者に対しては歯科医療人として適切な態度を持ったコミュニケーション能力を発揮し、さらに社会に貢献できる歯科技工士に求められる基本的知識、技能および態度を修得する。				
【テキストおよび参考書】 参考書『歯科医療面接アートとサイエンス 第3版』伊藤孝訓編著 鈴木一吉 他著 砂書房 『患者ニーズにマッチした歯科医療面接の実際』伊藤孝訓編著 クインテッセンス出版 『コミュニケーション学』末田清子・福田浩子 松柏社 『医療コミュニケーション—実証研究への多面的アプローチ』藤崎和彦・橋本英樹 篠原出版新社				
【講義の方法・形式】 講義室で配布資料、参考書、板書および画像提示により講義、演習を行う。				
回	日時	講義項目	到達目標(SBOs)	担当者
1	4/5 13:00-14:30	対人コミュニケーションの基礎1 <内容> 1.先入観 2.コミュニケーションとは 3.コミュニケーションの目的 4.コミュニケーションの特徴 5.対人コミュニケーション成立の条件 6.伝言 7.伝達と受信 8.情報交換・質問の方法	(1) コミュニケーションの定義を説明できる。 (2) コミュニケーションの特徴を列挙できる。 (3) 情報の伝達、収集が適正にできる。 (4) 情報の理解、質問が適正にできる。 (5) 質問法のスキルを分類できる。 (6) 適切な伝達法を選択できる。 (7) 一方通行と双方向のコミュニケーションを説明できる。 (8) グループワークを実施できる。	鈴木一吉
2	4/12 13:00-14:30	対人コミュニケーションの基礎2 <内容> 1.距離 2.傾聴・支持と共感 3.コミュニケーションで何が伝わるか 4.あいまい性 5.シンボル 6.コンテキスト 7.「言語・非言語・準言語」 コミュニケーション	(1) コミュニケーションの種類を分類できる。 (2) 非言語・準言語コミュニケーションについて種類を列挙し、概説できる。 (3) 環境設定(かかわり行動)の重要性を説明できる。 (4) 傾聴のスキルについて説明できる。 (5) 医療従事者としての適切な身だしなみについて説明できる。 (6) グループワークを実施できる。	鈴木一吉
3	4/19 13:00-14:30	対人コミュニケーションの基礎3 <内容> 1.メタ・メッセージ 2.言葉の曖昧さ 3.ニーズ 4.メタ認知 5. ジョハリの窓(自己開示) 6. プライベートとパブリック 7.異文化間コミュニケーション	(1) お互いの役割関係を考慮したコミュニケーションができる。 (2) 言語認識の仕組みが理解できる。 (3) コミュニケーションのスタイル・自己スタイルが分析できる。 (4) 個人的、社会的背景が異なる相手への対応が配慮できる。 (5) グループワークを実施できる。	鈴木一吉
4	4/23 13:00-14:30	医療コミュニケーションのための日本語の基礎 1 ・敬語 ・方言	(1) 正しい言葉遣いで会話できる。 (2) 敬語の種類、使い方が説明できる。 (3) 医療現場における言葉遣いと方言の使用が配慮できる。 (4) グループワークを実施できる。	橋岡和子

回	日時	講義項目	到達目標(SBOs)	担当者
5	4/30 13:00-14:30	医療コミュニケーションのための 日本語の基礎 2 ・正しい言葉遣い	(1) 正しい言葉遣いで会話できる。 (2) グループワークを実施できる。	橋岡和子
6	5/7 13:00-14:30	行動変容 1 ・行動変容の変化のステージモデル ・自己効力感 ・健康信念モデル ・重要度自信度モデル	(1) 健康信念モデルについて概説できる (2) 行動変容の変化のステージの各ステージを 列挙し説明できる。 (3) 自己効力感について概説できる。 (4) 重要度自信度モデルを図示し、概説 できる。 (5) 行動変容のための支援のスキルを列挙 できる。 (6) グループワークを実施できる。	橋岡和子
7	5/14 13:00-14:30	行動変容 2 ・コーチング ・行動変容のための支援	(1) 傾聴のスキルを実施できる。 (2) 承認のスキルを実施できる。 (3) 質問法のスキルを実施できる。 (4) コーチングについて概説できる。 (5) 行動変容のための支援のスキルを列挙 できる。 (6) グループワークを実施できる。	橋岡和子
8	5/21 13:00-14:30	医療コミュニケーションの基礎 ・専門用語 ・解釈モデル ・制度的会話 ・説明 ・患者-歯科技工士-歯科医師 (提案、相談、承認) ・電話、媒体コミュニケーション	(1) コミュニケーションスキルの医療への応用 について説明できる。 (2) 適切な電話対応を実践できる。 (3) グループワークを実施できる。	橋岡和子
【評価方法】 小テスト、定期試験、受講態度を総合的に判定する。				
【留意事項】 本科目は医療人としての基本的態度の修得を目的としている授業である。したがって、将来の医療人として心得のある態度、 服装で出席する。				
【授業以外の学習方法】 コミュニケーション関連の一般書籍や信頼できるインターネットのサイトを閲覧するなどして、日頃からコミュニケーションの 問題点に関心を持って学習する。 本授業は自学およびグループ学習型である。学んだ内容を振り返り、知識を定着させる。また、疑問などは随時まとめ、自学や 教員への質問などで解決をはかる。				
【連絡先】 鈴木一吉 随時 Teams のチャットで連絡 橋岡和子 授業の前後 薬学部棟 3F 第 2・3 講義室				
【オフィスアワー】 鈴木一吉 短期大学部棟 4 階 403 平日 13:00~17:00 橋岡和子 質問等は授業の前後あるいは専任教員(担任)を通じて対応します。				
【実務経験】 鈴木一吉 橋岡和子 歯科医師				

顎口腔の機能（講義）

担当教員	歯学部 准教授 佐久間重光	単位数（時間数）	1（15時間）
主な講義場所	薬学部棟 3F 第2・3講義室	時間割番号	201S2213
【目的】（GIO） 歯科治療の主目的は、歯と歯列を含む顎口腔系の形態を回復し改善することで顎口腔系の機能を維持することである。したがって、人工臓器としてのクラウン・ブリッジあるいは可撤性義歯などの治療用装置は重要な役割を持つことになる。顎口腔の機能の講義では、この治療用装置を生体と調和させるための確かな知識と応用力を修得することを目的とする。			
【テキストおよび参考書】 教科書『最新歯科技工士教本 顎口腔機能学 第2版』全国歯科技工士教育協議会 編集 医歯薬出版			
【講義の方法・形式】 講義室で、配付資料および画像教材を用いて講義を行う。			
回	日時	講義項目	講義内容・到達目標(SBOs)
1	4/8 14:45-16:15	顎口腔系の形態	(1) 歯と歯列が説明できる。 (2) 顎口腔系を構成する骨について説明できる。 (3) 顎口腔系を構成する筋について説明できる。 (4) 顎関節について説明できる。 (5) 舌、唾液腺などの軟組織について説明できる。 (6) 顎口腔系の神経支配について説明できる。
2	4/15 14:45-16:15	顎口腔系の機能	(1) 顎口腔系の機能が説明できる。 (2) 顎口腔系の機能と形態の維持について説明できる。 (3) 下顎運動の分析に関係する基準点・基準面が説明できる。 (4) 咬合に関する平面について説明できる。
3	4/22 14:45-16:15	下顎位	(1) 下顎位の定義が説明できる。 (2) 咬合位と顎頭位について説明できる。 (3) 臨床に直結する種々の下顎位について説明できる。
4	5/13 14:45-16:15	下顎運動	(1) 下顎の基本運動の種類と特徴が説明できる。 (2) 下顎の限界運動(ポッセルトの図形)について説明できる。 (3) 下顎の機能運動について説明できる
5	5/20 14:45-16:15	咬合	(1) 歯の形態と機能について説明できる。 (2) 歯列と咬合の関係が説明できる。 (3) 咬頭嵌合位における咬合接触が説明できる。 (4) 機能咬頭、非機能咬頭および被蓋関係が説明できる。 (5) 偏心位における咬合接触が説明できる。 (6) 咬合干渉の種類と原因が説明できる。
6	5/27 14:45-16:15	咬合器	(1) 咬合器の使用目的が説明できる。 (2) 咬合器の分類と各特徴が説明できる。 (3) フェイスボウトランスファーが説明できる。 (4) 上下顎模型の咬合器装着が説明できる。 (5) 咬合器の使用手順と調節方法が説明できる。
7	6/3 14:45-16:15	咬合検査と顎機能障害	(1) 咬合検査法について説明できる。 (2) 顎機能障害について説明できる。 (3) スプリントについて説明できる。
8	6/10 14:45-16:15	主に咬合接触関係について治療用装置を生体と調和させる要点を復習する	(1) 全部床義歯 (2) 部分床義歯 (3) クラウン・ブリッジ等の補綴装置
【評価方法】 定期試験の成績による。			
【留意事項】 1年生で学んだ「口腔の解剖」、「歯の解剖」および「有床義歯による修復」などの顎口腔の機能に関連する項目について復習してから講義に臨む。			
【授業以外の学習方法】 顎口腔の機能に関連する書籍を図書室などで熟読し、疑問点が生じたときは積極的に質問して欲しい。			

【連絡先】
佐久間重光 歯学部ホームページ「講座・詳細リスト」よりメールで連絡すること
【オフィスアワー】
佐久間重光 末盛臨床教育研究棟 4階 冠・橋義歯学講座 Lab4A 月・火・金 17:30~18:30
【実務経験】
佐久間重光 歯科医師

顎口腔の機能（実習）

担当教員	歯科技工専門学校 歯学部 准教授 講師 短期大学部 講師	助手:宮地 寮 非常勤講師:中川喜博 鶴田昌三、林 達秀 堀 美喜 後藤君江、原山裕子	単位数（時間数）	1（45 時間）
主な実習場所	薬学部棟 3F 基礎実習室		時間割番号	203S2214
【目的】（GIO） 顎口腔の機能実習では、患者と咬合器との関連性の理解に重点をおき、臨床に即した模型の咬合器装着、および患者の顎運動にあわせた咬合器の調節を行うことにより、補綴物の製作に欠かすことのできない咬合器の意義を理解する。また、咬合器の機構や調節性を熟知することで顎口腔機能学の理解と応用力を培う。このために学習の要点を成書で調べノートにまとめる。さらに、オーラルアプライアンスの一つとして、スポーツ用マウスガードの製作を行う。				
【教科書および参考書】 教科書 顎口腔機能学実習テキスト 愛知学院大学歯科技工専門学校 編集 参考書 『最新歯科技工士教本 顎口腔機能学 第2版』全国歯科技工士教育協議会 編集 医歯薬出版 半調節性咬合器プロアーチⅢEG取扱説明書 (株)松風 編集				
【実習の方法・形式】 示された方法で各実習項目を個人で行い、ステップ毎に検印を受ける。また、学習の要点をノートにまとめる。				
回	日時	実習項目	到達目標(SBOs)	
1	4/9 8:40-11:55	ガイダンス 研究用模型の製作-1	(1) 能動的な学習の必要性を理解し、以後の実習内容が説明できる。 (2) 印象採得を被験者として体験し、印象の処理と石膏注入ができる。	
2	4/16 8:40-11:55	研究用模型の製作-2	(1) 研究用模型の要件と製作順序が説明できる。 (2) 印象の気泡を修正し、研究用模型の台付けができる。 (3) 研究用模型のトリミングができる。 (4) 石膏の気泡を修正できる。 (5) 要件を満たした研究用模型が完成できる。	
3	4/23 8:40-11:55	研究用模型の製作-2 スポーツマウスガード用 作業用模型の製作	(1) スポーツマウスガード用作業模型が製作できる。	
		フェイスボウレコード	(1) フェイスボウの構造を理解し、操作手順および記録する各要素について説明できる。	
4	4/30 8:40-11:55	フェイスボウレコード	(1) フェイスボウレコードの前準備ができる。 (2) 操作手順を誤らず、各基準点を顔弓記録することができる。	
		フェイスボウトランスファー	(3) 顔弓記録の情報を的確に咬合器に装着できる。	
5	5/7 8:40-11:55	咬合器装着	(1) 後方基準点と咬合器の機構を理解し、上顎模型を装着できる。 (2) 中心咬合位で下顎模型を咬合器に装着できる。	
6	5/14 8:40-11:55	チェックバイト採得	(1) 各咬合位のチェックバイト採得ができる。	
		咬合器調節	(1) 採得されたチェックバイトから咬合器各部の調節ができる。 (2) 調節後の咬合器の動きと模型上の運動路を比較し、その再現性を確認できる。	
7	5/21 8:40-11:55	切歯路の形成	(1) 前歯切縁をチップングさせないように切歯路を形成できる。	
		咬合器の分類	(1) 咬合器の各部の機構から咬合器が分類できる。	
8	5/28 8:40-11:55	口頭試問	(1) 咬合器の分類についての口頭試問に合格できる。	
		研究用模型の観察	(1) 咬合接触点数、咬合の様式、早期接触の有無などについて観察し、所見を記録できる。	
9	6/4 8:40-11:55	仮想咬合器の示説	(1) 仮想咬合器の特徴が説明できる。 (2) 仮想咬合器の操作ができる。	
10	6/11 8:40-11:55	スポーツマウスガードの 製作-1	(1) スポーツ用マウスガードの目的、材料の性質、外形などを理解し、製作の準備ができる。 (2) 加圧型成形装置を操作し、手順よく成型ができる。	
11	6/18 8:40-11:55	スポーツマウスガードの 製作-2	(1) 外形線にあわせて材料をカットし、切断面の処理ができる。 (2) 目的とした下顎位に安定的に咬合させる調整ができる。	
12	6/25 8:40-11:55	作品とノートの提出 実習筆記試験 試験の解説と総括	(1) 作品を治療室に出せるよう清掃し、収納する。 (2) ノートの最終提出ができる。 (3) 学習の要点から出題された筆記試験問題に正答できる	
【ノートの提出】 第1回 実習帳P.25 学習上の要点 1.フェイスボウ①～⑫ 第2回 実習帳P.25 学習上の要点 2.咬合器①～⑮ 第3回 実習帳P.26 学習上の要点 3.その他①～⑪				
【評価方法】 各ステップにおける採点、作品、口頭試問、筆記試験、ノート、および実習態度を総合的に評価する。				

【留意事項】	実習時間内に定められたステップごとに検印を受け、作品は指定された期日までに完成し、提出する。 実習中は清潔な白衣を着用し、技工机、器具の清掃を常に心がける。
【授業以外の学習方法】	実習時間以外にも随時質問に応じ、広く門戸を開放しているので利用してほしい。
【連絡先】	鶴田昌三 tsuruta@dpc.agu.ac.jp 林達秀 thayashi@dpc.agu.ac.jp 堀 美喜 miki@hori@dpc.agu.ac.jp 後藤君江 原山裕子 短大部 4階教員室 宮地 寮 ryo0430@dpc.agu.ac.jp 随時 歯科技工専門学校 教員室
【オフィスアワー】	鶴田昌三 月～金曜日 4限終了後～18:00 林達秀 金曜日 16:30～18:00 堀 美喜 平日 9:00～16:00 後藤君江 月・水・木・金曜日 13:00～17:00 原山裕子 水・木・金曜日 12:00～17:30 宮地 寮 随時 歯科技工専門学校 教員室
【実務経験】	鶴田昌三 林 達秀 歯科医師 後藤君江 原山裕子 歯科衛生士 宮地 寮 歯科技工士

口腔の病理（講義）

担当教員	歯学部 教授:前田初彦 講師:河合遼子		単位数(時間数)	1単位(15時間)
主な講義場所	薬学部棟 3F 第2・3講義室		時間割番号	201S2215
【目的】(GIO) 口腔を含めた全身の病気の原因、成り立ち、経過、結果などの疾病の概念を学ぶことにより、臨床歯科医学の基礎知識を養い、作業用模型を中心とする歯科技工との関連性を理解する。				
【テキストおよび参考書】 教科書 『病理学 新・歯科衛生士教育マニュアル』 田中昭男 他著 クインテッセンス出版				
【講義の方法・形式】 講義室で教科書(参考書)、板書および画像提示により講義をおこなう。				
回	日時	講義項目	到達目標(SBOs)	担当者
1	5/30 13:00-14:30	オリエンテーション 歯の発生異常、歯の機能的および化学的損傷、歯の付着物および沈着物	(1) 口腔疾患と歯科技工の関連性が概説できる。 (2) 歯の数の異常、位置の異常、咬合の異常、構造の異常が説明できる。 (3) 咬耗、摩耗および齲蝕症について説明できる。 (4) ペリクル、プラークおよび歯石が説明できる。	前田初彦
2	6/6 13:00-14:30	象牙質とセメント質の増生および歯髄と歯根膜の石灰化、齲蝕	(1) 第二象牙質、第三象牙質が説明できる。 (2) 齲蝕の原因が説明できる。 (3) 齲蝕の分類が説明できる。	河合遼子
3	6/13 13:00-14:30	歯髄の病変	(1) 歯髄炎の要因、原因について説明できる。 (2) 歯髄炎が分類できる。	河合遼子
4	6/20 13:00-14:30	歯周組織の病変	(1) 歯周炎の要因、原因について説明できる。 (2) 歯周炎が分類できる。	河合遼子
5	6/27 13:00-14:30	抜歯創の治癒、口腔粘膜の病変、エプーリス、口腔領域の奇形、顎骨の病変	(1) 抜歯創の治癒について説明できる。 (2) 口腔粘膜病変が説明できる。 (3) エプーリスの種類、特徴が説明できる。 (4) 顎骨の非腫瘍性病変、腫瘍性病変が説明できる。	河合遼子
6	7/4 13:00-14:30	口腔領域の嚢胞	(1) 歯源性嚢胞、顎骨部嚢胞および軟組織部嚢胞について説明できる。	河合遼子
7	7/11 13:00-14:30	口腔領域の腫瘍	(1) 歯源性良性腫瘍、歯源性悪性腫瘍が説明できる。 (2) 口腔領域の非歯源性腫瘍について説明できる。 (3) 唾液腺の腫瘍が説明できる。	河合遼子
8	7/18 13:00-14:30	加齢変化とまとめ	(1) 口腔組織の加齢変化について説明できる。	河合遼子
【評価方法】 定期試験の筆記試験および授業態度を総合的に評価する。				
【留意事項】 講義内容の把握、復習を怠らない。				
【授業以外の学習方法】 積極的に図書館等で関連する書を読み、調べる。また、講義時間以外にも随時対応するので、気軽に質問してほしい。				
【連絡先】 前田初彦 楠元キャンパス基礎教育研究棟 2F 口腔病理学・歯科法医学講座 河合遼子 楠元キャンパス基礎教育研究棟 2F 口腔病理学・歯科法医学講座				
【オフィスアワー】 前田初彦 月 16:10~17:10 河合遼子 歯学部ホームページ「講座・詳細リスト」よりメールで事前に連絡・日程調整をすること				
【実務経験】 前田初彦 河合遼子 歯科医師				

歯冠歯列の保存・修復（講義）

担当教員	歯学部 特殊診療科教授 村上 弘 准教授 橋本和佳、友田篤臣 講師 阿部俊之		単位数 (時間数)	2 (30 時間)
主な講義場所	薬学部棟 3F 第 2・3 講義室		時間割番号	201S3227
【目的】(GIO) 歯冠修復物、保存修復物および橋義歯について総合的な理解を深め、口腔内での機能を営み維持するための補綴物の働きと、それらの製作方法について学ぶ。また、種々の歯冠色材料についての特色、技工術式を理解する。				
【テキストおよび参考書】 教科書 『最新歯科技工士教本 歯冠修復技工 第 2 版』 全国歯科技工士教育協議会 編集 医歯薬出版 参考書 『最新歯科技工士教本 歯科技工実習』 全国歯科技工士教育協議会 編集 医歯薬出版 『歯冠修復技工学 I、II 実習』 愛院大歯技 編集				
【講義の方法・形式】 講義室で教科書・参考書、板書および画像提示により講義を行う。				
回	日時	講義項目	到達目標(SBOs)	担当者
1	4/5 14:45-16:15	歯冠修復とは	歯冠修復を理解し、説明できる。 歯冠補綴装置の種類などを理解し、その特徴が説できる。	橋本和佳
2	4/12 14:45-16:15	クラウンの具備 条件一	クラウンの概要、種類を理解し、口腔内での適用条件や臨床的意義が説明できる。 生物学的要件を理解し、説明できる。 歯冠補綴装置と歯周組織との関係が説明できる。	橋本和佳
3	4/19 14:45-16:15	クラウンの具備 条件二	構造力学的要件を理解し、説明できる。 化学的要件を理解し、説明できる。 審美的要件について理解し、説明できる。	橋本和佳
4	4/26 14:45-16:15	クラウンの製作 順序	歯科医師の行う診療行為と歯科技工士の行う技工作業の 関連を理解し説明できる。 印象採得及び印象材の種類が説明できる。	橋本和佳
5	5/10 14:45-16:15	CAD/CAM システムの歯科 臨床応用	CAD/CAM システムの歯科臨床への応用の要点について説明 できる。	橋本和佳
6	5/17 14:45-16:15	部分被覆冠一	部分被覆冠の種類が説明できる。 インレー・アンレーが説明できる。 ブラックの窩洞の相違を理解し、窩洞の名称、構成が説明できる	友田篤臣
7	5/24 14:45-16:15	部分被覆冠二	インレー窩洞の基本的形態が説明できる。 金属とセラミックの特徴を説明できる。 メタルインレー窩洞とセラミックインレー窩洞の違いを説明できる	友田篤臣
8	5/31 14:45-16:15	ブリッジとは	ブリッジの分類、種類を理解し、口腔内での適用条件や臨床的意義が説明できる。 支台装置の種類による製作上の要点が説明できる。	阿部俊之
9	6/7 14:45-16:15	ブリッジの種類 と支台装置	ブリッジの分類、種類を理解し、口腔内での適用条件や臨床的意義が説明できる。 支台装置の種類による製作上の要点が説明できる。	阿部俊之
10	6/14 14:45-16:15	ポンティック	ポンティックの要件が説明できる。 各種ポンティックの基底面形態と顎堤粘膜との関係について説明 できる。 口腔内条件によるポンティックの適用部位について説明できる。	阿部俊之

回	日時	講義項目	到達目標(SBOs)	担当者
11	6/21 14:45-16:15	連結法	連結部の要件を理解し、説明できる。 固定性連結を理解し、術式が説明できる。 ワンピースキャスト法の利点とスプルーイングが説明できる。 ろう付け法が説明できる。 前ろう付け法と後ろう付け法の要点が説明できる。	阿部俊之
12	6/28 14:45-16:15	インプラントの歴史、目的、意義、治療手順、種類および特徴	ブリッジにおける CAD/CAM システムの歯科臨床への応用の要点について説明できる	阿部俊之
13	7/3 14:45-16:15	CAD/CAM システムの歯科臨床応用	(1)インプラントの歴史の変遷が説明できる。 (2)インプラントの目的、意義および治療手順が説明できる。 (3)インプラントの種類と特徴について説明できる。	村上 弘
14	7/10 14:45-16:15	インプラントの基本構造、生体材料及び補綴法	(1) インプラントの基本構造が説明できる。 (2) 使用する生体材料について説明できる。 (3) 上部構造の種類と特徴を説明できる。 (4) インプラントの上部構造体の製作法が説明できる。	村上 弘
15	7/17 14:45-16:15	インプラントのための画像診断の目的と意義	(1) エックス線検査の重要性が説明できる。 (2) 撮影方法と読影について説明できる。 (3) コンピューター・シミュレーションが説明できる。	村上 弘
【評価方法】 定期試験の筆記試験、および授業態度を総合的に評価する。				
【留意事項】 講義内容の把握、復習を怠らない。 実習は最後に行われるので講義内容を忘れず理解を深めてほしい。				
【授業以外の学習方法】 積極的に図書館等で関連する書を読み、調べる。 過去の国家試験問題集も揃えてあるので、実力を試してほしい。 身の回りの事象やインターネット、成書からの情報に関心を持つ。				
【連絡先】 村上 弘 授業の前後あるいは歯学部ホームページ「講座・詳細サイト」よりメールで連絡 友田篤臣 fusafusa@dpc.agu.ac.jp 橋本和佳 授業の前後あるいは歯学部ホームページ「講座・詳細サイト」よりメールで連絡 阿部俊之 授業の前後あるいは歯学部ホームページ「講座・詳細サイト」よりメールで連絡				
【オフィスアワー】 村上 弘、阿部俊之、橋本和佳 随時 末盛臨床教育研究棟 4 階 冠橋義歯・口腔インプラント学講座 Lab4A 友田篤臣 随時 末盛臨床教育研究棟 6 階 保存修復学講座 Lab6B 17:30~18:30				
【実務経験】 村上 弘 友田篤臣 橋本和佳 阿部俊之 歯科医師				

歯冠歯列の保存・修復技工（講義）

担当教員	歯科技工専門学校 講師 塚本文隆		単位数（時間数）	3（45時間）
主な講義場所	薬学部棟 3F 第2・3講義室		時間割番号	201S3228
【目的】（GIO） 歯冠修復物や保存修復物について総合的な理解を深め、口腔内で機能を営み、また健康を維持するための補綴装置の製作法に関する知識、技術および態度を身に付ける。また、陶材や硬質レジンなどの審美的材料について特色や技工術式を理解する。				
【テキストおよび参考書】 教科書 『最新歯科技工士教本 歯冠修復技工 第2版』 全国歯科技工士教育協議会 編集 医歯薬出版 参考書 『最新歯科技工士教本 歯科技工実習』 全国歯科技工士教育協議会 編集 医歯薬出版 『歯冠歯列の保存・修復技工 実習』 愛院大歯技 編集 『クラウンブリッジテクニック第2版』 三浦宏之・伊藤裕・小川匠・細川隆司・石橋寛二・川和忠治・寺田善博・福島俊士 編 医歯薬出版				
【講義の方法・形式】 講義室で教科書・参考書、板書および画像提示により講義を行う。 講義は毎回必ずノートを取り、各自でまとめを行い、指定された日時に提出し点検を受ける。				
回	日時	講義項目	到達目標(SBOs)	担当者
1	4/4 14:45-16:15	研究用模型 印象採得とトレー	(1) 研究用模型の要件を理解し、用途が説明できる。 (1) 個歯トレー、個人トレーの要点と製作方法が説明できる。	塚本文隆
2	4/11 14:45-16:15	支台築造 プロビジョナル レストレーション	(1) メタルコアの意義と製作法について説明できる。 (2) 分割メタルコアの製作法が説明できる。 (3) ファイバーコアの意義と製作法について説明できる。 (1) プロビジョナルレストレーションの意義と目的について説明できる。 (2) 使用材料、製作方法が説明できる。	塚本文隆
3	4/18 14:45-16:15	作業用模型 咬合器装着	(1) 作業用模型の要件と種類が説明できる。 (2) 技工作業から適切な作業用模型が選択できる。 (3) 各種模型の製作順序が説明できる。 (1) 咬合器の役割と種類が説明できる。 (2) 症例に応じた咬合器の選択ができる。 (3) 作業用模型の咬合器装着が説明できる。	塚本文隆
4	4/25 14:45-16:15	歯型の辺縁形態	(1) 支台の辺縁形態と種類が説明できる。 (2) 各種の歯冠補綴装置と適切な支台の辺縁形態が説明できる。	塚本文隆
5	5/2 14:45-16:15	全部鑄造冠-1 ワックスアップ	(1) ワックスアップの方法が説明できる。 (2) 歯冠形態、豊隆の程度が説明できる。 (3) 咬合接触関係について説明できる。 (4) 歯頸部の形態と形成法について説明できる。	塚本文隆
6	5/9 14:45-16:15	全部鑄造冠-2 埋没・鑄造 適合	(1) ワックスパターンの埋没、鑄造が説明できる。 (2) 鑄造する合金や修復物の種類に応じた埋没材、スプルーイングが選択できる。 (1) 鑄造体の調整方法を理解し、歯型への適合法が説明できる。 (2) 辺縁部、接触点部及び咬合状態の調整方法と意義が説明できる。	塚本文隆
7	5/16 14:45-16:15	全部鑄造冠-3 連結冠の連結法 調整・研磨	(1) ワンピースキャスト法と鑄付け法の手順が説明できる。 (2) 鑄材について説明できる。 (3) 鑄接、レーザー溶接の概要が説明できる。 (1) 研磨の目的と方法が説明できる。 (2) 研磨器具、材料が説明できる。	塚本文隆
8	5/23 14:45-16:15	前装冠-1 レジン前装鑄造冠	(1) 前装冠の種類と要件が説明できる。 (2) レジン前装鑄造冠の特徴と製作法が説明できる。	塚本文隆
9	5/29 13:00-14:30	前装冠-2 陶材の築盛・焼成	(1) 陶材の種類、築盛方法およびコンデンスの意義が説明できる。 (2) 陶材の焼成方法、スケジュールが説明できる。	塚本文隆
10	5/29 14:45-16:15	オールセラミック クラウン	(1) オールセラミッククラウンの種類と要件が説明できる。 (2) オールセラミッククラウンの特徴と製作法が説明できる。 (3) 材料と加工法の種類が説明できる。 (4) 歯科用 CAD/CAM システムの概要が説明できる。	塚本文隆

回	日時	講義項目	到達目標(SBOs)	担当者
11	6/5 13:00-14:30	ジャケットクラウン ポストクラウン	(1) ジャケットクラウンの特徴と製作法が説明できる。 (2) ポストクラウンの意義、特徴が説明できる。	塚本文隆
12	6/5 14:45-16:15	ブリッジ-1	(1) ブリッジの構成、利欠点が説明できる。 (2) ブリッジの構成形式から分類できる。 (3) ブリッジの製作順序が説明できる。	塚本文隆
13	6/12 13:00-14:30	ブリッジ-2	(1) 生物学的要件、機能的要件、物理・化学的要件および審美的要件が説明できる。 (2) 研究用模型、個歯・個人トレーおよび作業用模型製作の要点が説明できる。 (3) プロビジョナルレストレーションブリッジの意義、製作方法が説明できる。	塚本文隆
14	6/12 14:45-16:15	ブリッジ-3	(1) 支台装置の要件、種類について説明できる。 (2) ブリッジのワックスアップ法が説明できる。	塚本文隆
15	6/19 13:00-14:30	ブリッジ-4 ポンティック	(1) ポンティックの要件が説明できる。 (2) ポンティックの自浄性による分類ができる。 (3) ポンティックの基底面形態が説明できる。	塚本文隆
16	6/19 14:45-16:15	ブリッジ-5 ポンティック	(1) ポンティックの種類による用途の違いが説明できる。 (2) ポンティックの基底面形態の決定因子が説明できる。 (3) その排列、負担過重軽減法について説明できる。	塚本文隆
17	6/26 13:00-14:30	ブリッジ-6 連結法	(1) 連結部の留意点を理解し、十分に強度のある設計ができる。 (2) 連結法の種類と要件を説明できる。	塚本文隆
18	6/26 14:45-16:15	ブリッジ-7 陶材焼付金属 ブリッジ	(1) 前鑲付け法と後鑲付け法の違いを理解して、製作手順が説明できる。 (2) 鑲付け法、ワンピースキャスト法の手順・方法が説明できる。 (3) レーザー溶接法が説明できる。	塚本文隆
19	7/3 13:00-14:30	ブリッジ-8 半固定性ブリッジ と可撤性ブリッジ	(1) 半固定性ブリッジや可撤性ブリッジに応用する各種アタッチメントについて構造などが説明できる。	塚本文隆
20	7/5 14:45-16:15	口腔インプラント の技工-1	(1) インプラントの目的、意義および製作手順が説明できる。 (2) 上部構造の種類と特徴を説明できる。	塚本文隆
21	7/10 13:00-14:30	口腔インプラント の技工-2	(1) 診断用ワックスアップが説明できる。 (2) 診断用ステントと手術用サージカルガイドプレートの目的、使用材料および構造が説明できる。 (3) オープントレーとクローズドトレーの違いを説明できる。	塚本文隆
22	7/12 14:45-16:15	口腔インプラント の技工-3	(1) インプラントの上部構造の製作法が説明できる。 (2) インプラント技工に用いる作業用模型の特徴を説明できる。 (3) セメント固定式とスクリュー固定式の違いが理解できる。 (4) 歯科用 CAD/CAM システムを応用した上部構造の製作法を説明できる。	塚本文隆
23	7/17 13:00-14:30	まとめと試験の 準備	(1) 歯冠修復物の製作過程における要点が説明できる。 (2) ブリッジと部分床義歯との相違点、ブリッジの利・欠点が説明できる。 (3) 口腔インプラントの上部構造の製作について説明できる。 (4) 試験の準備として講義ノートの点検を受けることができる。	塚本文隆

【評価方法】 定期試験の筆記試験、講義ノート(10%)および授業態度を総合的に評価する。
【留意事項】 講義内容の把握し復習を怠らない。講義内容の一層の理解を進めてほしい。
【授業以外の学習方法】 積極的に図書館等で関連する書を読み、調べる。 また、過去の国家試験問題集も揃えてあるので、実力を試してほしい。
【連絡先】 塚本文隆 tsuka55@dpc.agu.ac.jp
【オフィスアワー】 塚本文隆 随時 歯科技工専門学校 教員室
【実務経験】 塚本文隆 歯科技工士

歯冠歯列の保存・修復技工（実習）

担当教員	歯科技工専門学校 講師:塚本文隆 助手:吉田唯花 非常勤講師 中川喜博、北村 悠		単位数(時間数)	5(225 時間)
主な実習場所	薬学部棟 3F 基礎実習室		時間割番号	202S3229
【目的】(GIO) 歯と歯列との関連性に重点をおき、歯列に調和する歯冠形態、歯冠補綴装置の製作工程を理解する。また、患者の固有形態にあわせた歯冠を製作することにより、補綴装置の製作に欠かすことのできない審美性の意義を理解し、あわせて歯科材料の性質を熟知することにより、歯冠修復技工に関する知識、技術および態度を身に付ける。				
【教科書および参考書】 教科書 『歯冠歯列の保存・修復技工 実習』 愛院大歯技 編集 参考書 『最新歯科技工士教本 歯冠修復技工 第2版』 全国歯科技工士教育協議会 編集 医歯薬出版 『最新歯科技工士教本 歯科技工実習』 全国歯科技工士教育協議会 編集 医歯薬出版 『クラウンブリッジテクニック第2版』 三浦宏之・伊藤裕・小川匠・細川隆司・石橋寛二・川和忠治・寺田善博・福島俊士 編 医歯薬出版				
【実習の方法・形式】 示説された実習方法で歯冠修復装置、保存修復装置を製作し、ステップ毎に指導者の検印を受ける。 学習の要点をノートにまとめる。8				
回	日時	実習項目	到達目標(SBOs)	
1	4/4 8:40-14:30	ガイダンス 1. 作業用模型-1	(1) 実習内容と進め方を理解して能動的な学習が実行できる。 (1) 実習で使用する概形模型、歯型可撤式模型が製作できる。	
2	4/8 8:40-11:55	1. 作業用模型-2	(1) 実習で使用する分割復位式模型、対合模型が製作できる。 (2) モデルトリマーで作業用模型を調整できる。 (3) 上下顎模型を咬頭嵌合位で固定できる。	
3	4/10 8:40-11:55	2. 咬合器装着前準備 3. 咬合器装着	(1) 作業用模型を咬合器の正しい位置に装着できる。 (1) 装着の適否を確認し、記名(出席番号の刻印が)できる。	
4	4/11 8:40-14:30	4. 歯型の分割作業 5. 歯型のトリミング	(1) 分割復位式模型の歯型を石膏ノコで分割できる。 (1) 歯型辺縁部のトリミングができる。	
5	4/15 8:40-11:55	6. 個歯トレー-1	(1) 個人トレー、個歯トレーの目的と要件が説明できる。 (2) 概形模型の歯頸部をトリミングし、スペーサーが付与できる。 (3) 常温重合レジン盛り上げ、所定の厚さと形態に形成できる。	
6	4/17 8:40-11:55	6. 個歯トレー-2	(1) 個歯トレーが完成できる。 (2) 模型を清掃し、提出できる。	
7	4/18 8:40-14:30	7. 白歯部メタルコア-1	(1) 支台築造を理解し、メタルコアの意義が説明できる。 (2) メタルコアの保持力が大きくなる条件を列挙できる。 (3) メタルコアがワックスアップできる。	
8	4/22 8:40-11:55	7. 白歯部メタルコア-2	(1) スプルー線を植立し、埋没できる。 (2) リングファーンエスの設定ができる。 (3) 低融銀合金の鋳造法を理解し鋳造できる。	
9	4/24 8:40-11:55	7. 白歯部メタルコア-3 8. プロビジョナル レストレーション-1	(1) メタルコアの軸面を修正し、歯質と移行的に研磨し完成できる。 (1) 常温重合レジン盛り上げの前準備ができる。	
10	4/25 8:40-14:30	8. プロビジョナル レストレーション-2	(1) 常温重合レジン歯型に過不足なく、咬頭嵌合位を保つように盛り上げることができる。 (2) 歯科技工用ハンドピースで歯冠の概形を形成し、溝、窩を付与できる。 (3) レジンの過不足を修正し、咬合調整ができる。 (4) 研磨、完成できる。	
11	5/1 8:40-11:55	9. 全部鋳造冠-1	(1) 石膏角棒に指示した歯種の歯冠形態を彫刻できる。	
12	5/2 8:40-14:30	9. 全部鋳造冠-2	(1) ワックスを適切に歯型に盛り上げることができる。 (2) 歯冠の概形が形成できる。 (3) 頭嵌合位で適切な咬合の高さを与えることができる。	
13	5/8 8:40-11:55	9. 全部鋳造冠-3	(1) 歯冠形態の細部が形成できる。 (2) 咬合干渉の有無を点検し、蠟型が研磨できる。 (3) リムバルノブの付与し、スプルー線が植立できる。 (4) 気泡の混入のない埋没ができる。	
14	5/9 8:40-14:30	9. 全部鋳造冠-4	(1) リングファーンエスの設定ができる。 (2) 鋳造リングを焼却し、金パラジウム銀合金が鋳造できる。 (3) 酸処理をして鋳造冠の適合確認ができる。	

回	日時	実習項目	到達目標(SBOs)
15	5/13 8:40-11:55	9. 全部鑄造冠-5	(1) 隣接面接触点、咬合接触点が適切に調整できる。 (2) 中仕上げ研磨で溝、窩の処理ができる。 (3) 辺縁部を調整し中仕上げ研磨ができる。
16	5/15 8:40-11:55	9. 全部鑄造冠-6	(1) 仕上げ研磨を行い全部鑄造冠が完成できる。 (2) 完成後の検査項目に従い、作品を検査できる。
17	5/16 8:40-14:30	9. 全部鑄造冠-7	(1) 定められた時間内で全部鑄造冠のワックスパターンが完成できる。
18	5/20 8:40-11:55	10. メタルインレー-1	(1) メタルインレーによる修復の利、欠点が説明できる。 (2) 窩洞に適切な形態でワックスアップできる。
19	5/22 8:40-11:55	10. メタルインレー-2	(1) スプルー線の役割を列挙し適切な植立ができる。 (2) 気泡の混入のない埋没ができる。
20	5/23 8:40-14:30	10. メタルインレー-3	(1) 鑄造リングを焼却し金パラジウム銀合金が鑄造できる。 (2) 鑄造後の酸処理、適合の確認ができる。 (3) 隣接面接触点、咬合接触点の調整ができる。 (4) 辺縁部の調整、研磨ができる。 (5) 完成したメタルインレーを点検し、清掃後、提出できる。
21	5/27 8:40-11:55	10. メタルインレー-4	(1) レジン前装鑄造冠が模刻できる。
22	6/3 8:40-11:55	11. レジン前装鑄造冠-1	(1) レジン前装部の窓開けができる。 (2) レジン前装部に維持装置が付与できる。 (3) スプルー線を植立し、埋没できる。
23	6/10 8:40-11:55	11. レジン前装鑄造冠-2	(1) 欠陥のない鑄造ができる (2) レジン前装鑄造冠を中研磨し、フニッシュライン部の調整ができる。 (3) レジン築盛面のサンドブラスト処理、接着処理ができる。 (4) オペークレジンを築盛し、光重合できる。 (5) サービカル色レジンを築盛し、光重合できる。
24	6/17 8:40-16:15	11. レジン前装鑄造冠-3	(1) ボディ色レジンを築盛し、光重合できる (2) エナメル色レジンを築盛し、光重合できる。 (3) 接触点部を調整し、築盛レジンを形態修正できる。
25	6/24 8:40-16:15	11. レジン前装鑄造冠-4	(1) 接触点部を調整し、築盛レジンを形態修正できる。
26	6/28 8:40-14:30	11. レジン前装鑄造冠-5	(1) 必要に応じてレジンの追加築盛、光重合ができる。 (2) 築盛レジンを形態修正し、咬合調整とフニッシュライン部の処理ができる。
27	7/1 8:40-16:15	11. レジン前装鑄造冠-6	(1) 金属部を含めた中研磨、仕上げ研磨ができる。 (2) 完成したレジン前装鑄造冠を清掃し点検できる。
28	7/2 8:40-11:55	11. 陶材焼付鑄造冠-1	(1) 陶材焼付鑄造冠が模刻できる。 (2) 陶材焼付鑄造冠の窓開けができる。
29	7/5 8:40-14:30	12. 陶材焼付鑄造冠-2	(1) スプルー線を植立しリン酸塩系埋没材で埋没できる。
30	7/8 8:40-16:15	12. 陶材焼付鑄造冠-3	(1) 電気加熱式吸引圧迫鑄造機が使用できる。 (2) 陶材焼付用合金が鑄造できる。 (3) 安全に注意して鑄造体のフッ酸処理ができる。
31	7/9 8:40-11:55	12. 陶材焼付鑄造冠-4	(1) 適合状態、厚さを点検し、鑄造冠の状態を把握できる。
32	7/12 8:40-14:30	12. 陶材焼付鑄造冠-5	(1) 陶材築盛面の切削処理ができる。 (2) 陶材の積層構造と色調、焼成工程が説明できる。 (3) ポーセレンファーマネスが操作できる。 (4) デギャッシングの目的を理解し、適切な操作ができる。
33	7/16 8:40-11:55	12. 陶材焼付鑄造冠-5	(1) オペーク、歯頸部色陶材の築盛、焼成ができる。
34	7/19 8:40-14:30	12. 陶材焼付鑄造冠-6	(1) デンティン、エナメル色陶材の築盛、焼成ができる。
35	7/22 8:40-16:15	12. 陶材焼付鑄造冠-7	(1) 接触点を調整し、作業用模型上で色調の良否、形態の過不足が確認できる。 (2) 陶材の形態修正と咬合調整ができる。 (3) 必要に応じた陶材の追加築盛と焼成ができる。
36	9/11 8:40-16:15	12. 陶材焼付鑄造冠-8	(1) 最終的な陶材の形態修正と咬合調整ができる。 (2) 陶材の色調補正、グレージングができる。

回	日時	実習科目	到達目標(SBOs)
37	9/12 8:40-14:30	12. 陶材焼付鑄造冠-9	(1) 金属部の仕上げ研磨ができる。 (2) 完成した作品を点検し、問題点を確認できる。
38	9/13 8:40-16:15	習得度試験-1 (実技) 習得度試験-2 (筆記)	出題された歯冠補綴装置のワックスアップができる。 筆記試験問題で60%の正答率が取れる。
39	9/18 8:40-16:15	筆記試験解説、 ワックスアップの修正、 咬合器の清掃。大掃除	試験で誤った箇所を覚え、以後の類似問題に対応できる。 完成した装置を含む模型を清掃し、咬合器の返却ができる。
40	9/19 8:40-16:15	ジルコニアセラミック-1	歯科用CADシステムを用いたジルコニアクラウンの設計・データの送信ができる。
41	9/20 8:40-16:15	ジルコニアセラミック-2	(1) マイクロクラックが起らないようにジルコニアクラウンの適合・調整を行うことができる。
42	9/25 8:40-16:15	ジルコニアセラミック-3	(1) ジルコニアの色調を整え、焼成ができる。 (2) 最終研磨できる。
43	9/26 8:40-16:15	ジルコニアセラミック-4	(1) 完成した作品を点検し、問題点を確認できる。
44	9/27 8:40-16:15	ガイダンス ブリッジ-1	(1) 実習概要を理解し、真摯な態度で実習に臨むことができる。 (2) 既成ゴム型(25T-19)で橋義歯のための分割復体式模型が製作できる。 (3) ゴム型(500A)で対合模型が製作できる。
45	10/2 8:40-16:15	ブリッジ-2	(1) 模型を簡易型咬合器に装着できる。 (2) 歯型を分割し、辺縁を損なわないようにトリミングできる。
46	10/3 8:40-16:15	ブリッジ-3	(1) ブリッジの概形成がワックスアップできる。 (2) 支台装置の要件を満たした細部のワックスアップができる。 (3) 咬合関係、接触点を形成し、ブリッジのワックスアップが完成できる。
47	10/4 8:40-16:15	ブリッジ-4	(1) ポンティックの窓開けが形成できる。 (2) 自浄性、清掃性を考慮したリッジラップ型の基底面形態を形成できる。
48	10/9 8:40-16:15	ブリッジ-5	(1) 完成したワックスアップの分割ができる。 (2) スプルー線を適切な位置に植立し、気泡の混入のない埋没ができる。
49	10/10 8:40-16:15	ブリッジ-6	(1) 鑄造・掘り出し・酸処理ができる。 (2) 適合を確認し、中研磨できる。
50	10/11 8:40-16:15	ブリッジ-7	(1) ブリッジの適合確認・咬合調整ができる。 (2) ブリッジの形態を整えて、中仕上げ研磨ができる。
51	10/16 8:40-16:15	ブリッジ-8	(1) ポンティック部のレジン前装前処理ができる。 (2) レジンの未重合や気泡に注意して、ポンティック部の築盛ができる。
52	10/17 8:40-16:15	ブリッジ-9	(1) レジン前装部の形態修正ができる。 (2) ポンティック基底面の形態に留意して、ブリッジの最終研磨ができる。
53	10/23 8:40-16:15	習得度試験-1 (実技) 習得度試験-2 (筆記)	(1) 定められた時間内でブリッジのワックスアップができる。 (2) 筆記試験問題で60%の正答率が取れる。
54	10/30 8:40-16:15	ワックスアップの修正 筆記試験解説、咬合器の 清掃、ノート提出、大掃除	(1) 適切なワックスアップの修正ができる。 (2) 試験で誤った箇所を覚えなおし、以後の類似問題に対応できる。 (3) 完成した装置を含む模型、咬合器を清掃し提出できる。
【評価方法】 各ステップにおける採点、作品、口頭試問、筆記試験、ノートおよび実習態度(10%)を総合的に評価する。			
【留意事項】 実習内容を把握し、実習に用いる書類、器具の準備を怠らない。 実習に必要なもの以外は持ち込まない。 白衣、頭髪を整え、上履きを着用する。 指輪やピアスは外し、ネイルアートは行わない。 遅刻は厳禁とする。			
【授業以外の学習方法】 積極的に図書館等で関連する書を読み調べる。 実習時間以外にも随時対応するので、気軽に質問してほしい。			
【連絡先】 塚本文隆 tsuka55@dpc.agu.ac.jp 吉田唯花 yoshi104@dpc.agu.ac.jp 中川喜博、北村 悠 質問等は授業の前後あるいは専任教員(担任)を通じて対応します。			
【オフィスアワー】 塚本文隆 吉田唯花 随時 歯科技工専門学校 教員室 中川喜博 北村 悠 各授業の前後			
【実務経験】 塚本文隆 吉田唯花 中川貴博 北村 悠 歯科技工士			

小児歯科の技工（講義）

担当教員	歯学部 講師:玄番 千夏子 助教:加古 駿輔		単位数（時間数）	1（15時間）
主な講義場所	薬学部棟 3F 第2・3講義室		時間割番号	201S3331
【目的】（GIO） 小児の特徴を理解し、小児のための歯科技工を行うに際して必要とされるさまざまな知識、技能および態度を修得する。				
【教科書および参考書】 教科書 『最新歯科技工士教本 小児歯科技工学 第2版』 全国歯科技工士教育協議会 編集 医歯薬出版 参考書 『小児歯科技工学実習』 愛院大歯技 編集				
【講義の方法・形式】 講義室で教科書（参考書）、板書および画像提示により講義をおこなう。				
回	日時	講義項目	到達目標(SBOs)	担当者
1	4/10 13:00-14:30	小児歯科技工概説 一般目標(GIO) 小児の歯科技工を行うために必要な知識、技能、態度を修得する。	(1) 小児歯科技工の特徴が説明できる。 (2) 乳歯齲蝕が説明できる。 (3) 乳歯齲蝕の影響が説明できる。 (4) 乳歯の欠損が永久歯列に与える影響が説明できる。	加古 駿輔
2	4/17 13:00-14:30	小児の成長発育 一般目標(GIO) 小児の発育に必要な知識を修得する。	(1) 小児期の分類が説明できる。 (2) 各器官の発育が説明できる。 (3) 生理的年齢が説明できる。	加古 駿輔
3	4/24 13:00-14:30	頭蓋顎顔面、歯列・咬合、歯の発育 一般目標(GIO) 頭蓋顎顔面、歯列・咬合、歯の発育の基本的構造と知識を修得する。	(1) 頭蓋、顎顔面の成長発育が説明できる。 (2) 乳歯と永久歯の放出時期と順序が説明できる。 (3) 乳歯の特徴が説明できる。 (4) 歯列・咬合の発育様式が説明できる。	加古 駿輔
4	5/1 13:00-14:30	小児の歯冠修復 一般目標(GIO) 乳歯の歯冠修復の技工に必要な知識、技能、態度を修得する。	(1) 乳歯の歯冠修復の特徴が説明できる。 (2) 小児の歯冠修復の種類が説明できる。 (3) 成形修復、インレー修復、被覆冠修復が説明できる。	加古 駿輔
5	5/8 13:00-14:30	咬合誘導 一般目標(GIO) 咬合誘導装置の技工に必要な知識、技能、態度を修得する。	(1) 咬合誘導装置の種類が説明できる。 (2) 保険装置の種類が説明できる。 (3) 各種保険装置の構成と製作法が説明できる。	玄番千夏子
6	5/15 13:00-14:30	咬合誘導 一般目標(GIO) スペースリゲーターの技工に必要な知識、技能、態度を修得する。	(1) スペースリゲーターの意義と目的が説明できる。 (2) スペースリゲーターの構成と製作法が説明できる。	玄番千夏子
7	5/22 13:00-14:30	口腔習癖除去装置 一般目標(GIO) 口腔習癖除去装置の技工に必要な知識、技能、態度を修得する。	(1) 口腔習癖の種類が説明できる。 (2) 口腔習癖除去装置の種類が説明できる。 (3) 各口腔習癖除去装置の構成と製作法が説明できる。	玄番千夏子
8	5/29 13:00-14:30	一般目標(GIO) 咬合誘導装置の技工に必要な知識、技能、態度を修得する。	(1) 咬合誘導装置に用いる維持装置の種類が説明できる。 (2) 各維持装置の特徴が説明できる。 (3) 各維持装置の製作法が説明できる。	玄番千夏子
【評価方法】 定期試験の筆記試験、授業態度を総合的に評価する。				
【留意事項】 講義内容の把握、復習を怠らない。 実習により講義内容の一層の理解を進めてほしい。				
【授業以外の学習方法】 積極的に図書館等で関連する書を読み、調べる。 また、講義時間以外にも随時対応するので、気軽に質問してほしい。				
【連絡先】 玄番千夏子 gemba@dpc.agu.ac.jp 加古駿輔 kakoshun@dpc.agu.ac.jp				
【オフィスアワー】 玄番千夏子 加古駿輔 末盛臨床教育研究棟 5F Lab5A				
【実務経験】 玄番千夏子 加古駿輔 歯科医師				

小児歯科の技工（実習）

担当教員	歯学部 講師：林勇輝、助教：酒徳晋太郎(非)		単位数（時間数）	1（30時間）
主な実習場所	薬学部棟 3F 基礎実習室		時間割番号	203S3432
【目的】（GIO） 講義により小児の特性、乳歯の形態学的特徴および顎・歯列・咬合の成長様式を十分理解した上で、小児の歯冠修復や咬合誘導装置に必要な基本的技能、知識および態度を身につけ、ひいては小児歯科技工学の理解と応用力を培う。				
【教科書および参考書】 教科書 『小児歯科技工学実習』 愛院大歯 編集 参考書 『最新歯科技工士教本 小児歯科技工学 第2版』 全国歯科技工士教育協議会 編集 医歯薬出版				
【実習の方法・形式】 決められた実習項目を個人で行い、ステップ毎に検印を受ける。				
回	日時	実習項目	到達目標(SBOs)	
1	5/29 8:40-11:55	歯型彫刻-1	(1) 下顎第一乳白歯の歯冠部の形態的特徴について説明できる。	
2	6/5 8:40-11:55	歯型彫刻-2	(1) 下顎第一乳白歯の歯冠部の歯型彫刻ができる。	
3	6/12 8:40-11:55	クラウンループ保隙装置の製作-1	(1) クラウンループ保隙装置の製作法が説明できる。 (2) 乳歯用既製金属冠の調整ができる。	
4	6/19 8:40-11:55	クラウンループ保隙装置の製作-2	(1) 保隙部の設計ができる。 (2) ループの屈曲ができる。	
5	6/26 8:40-11:55	クラウンループ保隙装置の製作-3	(1) ループのろう着ができる。	
6	7/3 8:40-11:55	可撤保隙装置の製作-1	(1) 可撤保隙装置の製作法が説明できる。 (2) 可撤保隙装置の外形線が設定できる。 (3) 唇側弧線が屈曲できる。	
7	7/10 8:40-11:55	可撤保隙装置の製作-2	(1) 即時重合レジンで基礎床が製作できる。 (2) 欠損部の人工歯排列ができる。	
8	7/17 8:40-11:55	可撤保隙装置の製作-3	(1) 即時重合レジンで床の筆盛りができる。 (2) レジン床の研磨ができる。	
【評価方法】 各ステップにおける製作品の採点、および実習態度を総合的に評価する。				
【留意事項】 実習内容の把握、実習に用いる書類、器具の準備を怠らない。 白衣、頭髪を整え、ネイルアートは行わない。 指輪およびピアスは外し、上履きを着用する。 遅刻は厳禁とする。 実習に必要なもの以外は持ち込まない。 製作品は定められた各ステップで指導教員の検印を受け、提出期日を厳守する。				
【授業以外の学習方法】 各ステップにおける採点、作品、ノートおよび実習態度(10%)を総合的に評価する。				
【連絡先】 林 勇輝 hys8y9@dpc.agu.ac.jp 酒徳 晋太郎 sakatoku@dpc.agu.ac.jp				
【オフィスアワー】 林 勇輝 hys8y9@dpc.agu.ac.jp 酒徳 晋太郎 sakatoku@dpc.agu.ac.jp 末盛臨床教育研究棟 5F Lab5A				

【実務経験】

林 勇輝 酒徳 晋太郎 歯科医師

矯正歯科の技工（講義）

担当教員	歯学部 講師:樋田真由 助教:千代鶴真希(非)		単位数 (時間数)	1 (15 時間)
主な講義場所	薬学部棟 3F 第2・3 講義室		時間割番号	201S3433
【目的】(GIO) 矯正歯科治療の目的を理解し、不正咬合の分類、矯正診断および治療方針・方法に基づく矯正装置の適用を理解したうえで、矯正装置の構造、効果および製作方法に関する知識を修得する。				
【教科書および参考書】 教科書 『最新歯科技工士教本 矯正歯科技工学 第2版』 全国歯科技工士教育協議会 編集 医歯薬出版				
【講義の方法・形式】 講義室で教科書(参考書)、板書および画像提示により講義をおこなう。				
回	日時	講義項目	講義内容・到達目標(SBOs)	担当者
1	4/10 14:45-16:15	矯正歯科技工学 概論	(1) 矯正歯科技工の特徴が説明できる。 (2) 不正咬合による障害が説明できる。	樋田真由
		正常咬合	(1) 正常な歯列と咬合の共通した性質が説明できる。 (2) 正常咬合の種類が説明できる。	
2	4/17 14:45-16:15	不正咬合	(1) 個々の歯の位置異常が説明できる。 (2) 歯列弓形態の異常が説明できる。 (3) 上下歯列の対咬関係の異常が説明できる。	樋田真由
		不正咬合の分類	(1) アングルの不正咬合の分類が説明できる。	
3	4/24 14:45-16:15	矯正歯科治療の 進め方	(1) 矯正歯科治療の流れが説明できる。 (2) 症例分析法、矯正診断ができる。 (3) 動的治療、保定について説明できる。 (4) 矯正診断用模型について説明できる。 (5) 対合関係の異常が説明できる。	樋田真由
4	5/1 14:45-16:15	矯正歯科技工用 器具と器械	(1) 矯正歯科技工用器具と器械が説明できる。	樋田真由
		矯正歯科技工の 基本的手技	(1) 矯正歯科技工用器具、機械が説明できる。 (2) 線屈曲に関する原則、基本的手技が説明できる。	
5	5/8 14:45-16:15	矯正用口腔模型 の製作	(1) 矯正用模型の種類と特徴が説明できる。 (2) 平行模型の製作法と注意点が説明できる。 (3) セットアップモデルの用途と製作法を説明できる。	千代鶴真希
		矯正用装置の 必要条件と分類	(1) 矯正装置の基本的な条件が説明できる。 (2) 矯正装置の分類方法が説明できる。	
6	5/15 14:45-16:15	矯正装置-1	(1) 矯正装置の必要条件と分類が説明できる。 (2) 機能的矯正装置の種類、目的、効果、作用機序、構成および製作方法が説明できる。	千代鶴真希
7	5/22 14:45-16:15	矯正装置-2	(1) 舌側弧線装置の目的、効果、構成および製作方法が説明できる。 (2) 弾線の種類と使用目的が説明できる。 (3) 拡大装置の種類、目的、効果、構成および製作方法が説明できる。 (4) 床装置の種類、目的、効果、構成および製作方法が説明できる。	千代鶴真希
8	5/29 14:45-16:15	矯正装置-3	(1) 顎外固定装置の種類、目的、効果、構成および製作方法が説明できる。 (2) マルチブラケットの種類、目的、効果および構成が説明できる。 (3) 保定装置の種類、目的、効果、構成および製作方法が説明できる。	千代鶴真希
【評価方法】 定期試験の筆記試験、授業態度を総合的に評価する。				
【留意事項】 講義内容の把握、復習を怠らない。実習により講義内容の一層の理解を進めてほしい。				
【授業以外の学習方法】 積極的に図書館等で関連する書を読み、調べる。 講義時間以外にも随時対応するので、気軽に質問してほしい。				
【連絡先】 樋田真由 mayu-h@dpc.agu.ac.jp 千代鶴真希 chiyo-m@dpc.agu.ac.jp				

【オフィスアワー】

樋田真由 千代鶴真希
末盛臨床教育研究棟 5F Lab5A

【実務経験】

樋田真由 千代鶴真希 歯科医師

矯正歯科の技工（実習）

担当教員	歯学部 講師:関谷健夫 高橋美文 助教:林香里 佐々木恵理 歯科技工専門学校 講師:今田麻美(非)		単位数（時間数）	1 (30 時間)
主な講義場所	薬学部棟 3F 基礎実習室		時間割番号	203S3434
【目的】(GIO) 矯正歯科技工実習では、矯正装置を製作することで、矯正装置の製作手順、構造、適用および効果等を学習する。				
【教科書および参考書】 教科書 矯正歯科技工実習テキスト 愛院大歯 編集 参考書 『最新歯科技工士教本 矯正歯科技工学 第2版』全国歯科技工士教育協議会 編集 医歯薬出版				
【実習の方法・形式】 決められた実習項目を個人で行い、ステップ毎に検印を受ける。				
回	日時	実習項目	到達目標(SBOs)	
1	5/30 8:40-11:55	自在ろう着	(1) 自在ろう着の操作手順が説明できる。 (2) 設計図どおりに弾線の位置、角度を正しくろう着できる。 (3) 弾線を焼きなますことなく、ろう着できる。	
2	6/6 8:40-11:55	舌側弧線装置の製作-1	(1) 舌側弧線装置の目的、構造および各部名称が説明できる。 (2) 舌側弧線装置が設計できる。 (3) 舌側弧線装置の製作方法が説明できる。	
3	6/13 8:40-11:55	舌側弧線装置の製作-2	(1) 維持装置、維持装置の脚部と主線がろう着できる。 (2) 維持装置の脚部と主線が屈曲できる。	
4	6/20 8:40-11:55	アクチバートルの製作-1	(1) アクチバートルの構造、各部名称が説明できる。 (2) アクチバートルが設計できる。 (3) アクチバートルの製作方法が説明できる。	
5	6/27 8:40-11:55	アクチバートルの製作-2	(1) 機能的矯正装置の作用機序と構成咬合が説明できる。 (2) 顎間誘導線が屈曲できる。 (3) 歯科用ワックスによる仮床形成ができる。	
6	7/4 8:40-11:55	ホーレーの保定装置の製作-1	(1) ホーレーの保定装置の構造、各部名称が説明できる。 (2) ホーレーの保定装置が設計できる。	
7	7/11 8:40-11:55	ホーレーの保定装置の製作-2	(1) ホーレーの保定装置の製作方法が説明できる。 (2) ホーレーの保定装置の作用機序が説明できる。	
8	7/18 8:40-11:55	ホーレーの保定装置の製作-3	(1) 接歯唇側線が屈曲できる。	
【評価方法】 各ステップにおける製作品の採点、レポートおよび実習態度を総合的に評価する。				
【留意事項】 実習内容の把握、実習に用いる書類、器具の準備を怠らない。 白衣、頭髪を整え、ネイルアートは行わない。 指輪およびピアスは外し、上履きを着用する。 遅刻は厳禁とする。 実習に必要なもの以外は持ち込まない。 製作品は定められた各ステップで指導教員の検印を受け、提出期日を厳守する。				
【授業以外の学習方法】 各ステップにおける採点、作品、ノートおよび実習態度(10%)を総合的に評価する。				
【連絡先】 関谷健夫、林 香里、佐々木恵理 授業の前後または、担任まで / 末盛臨床教育研究棟 5F Lab5A 歯科矯正学講座 高橋美文 tmifumi@dpc.agu.ac.jp / 末盛臨床教育研究棟 5F Lab5A 歯科矯正学講座 今田麻美 授業の前後または、担任まで				

【オフィスアワー】

関谷健夫、林 香里、佐々木恵理 授業の前後または、担任まで／末盛臨床教育研究棟 5F Lab5A 歯科矯正学講座
高橋美文 tmifumi@dpc.agu.ac.jp／末盛臨床教育研究棟 5F Lab5A 歯科矯正学講座
今田麻美 授業の前後または、担任まで

【実務経験】

関谷健夫 高橋美文 林香里 佐々木恵理 歯科医師
今田麻美 歯科技工士

歯科技工の総合示説（演習）

担当教員	歯科技工専門学校 講師 塚本文隆、 助手 宮地 寮 吉田唯花		単位数（時間数）	3（90 時間）
主な実習場所	薬学部棟 3F 基礎実習室		時間割番号	202SA3535
【目的】（GIO）と到達目標（SBOS） 歯科技工士国家試験の学説試験に合格できる学力を養成するために学説試験に該当する専門科目8教科について講義と試験を行う。学説試験の出題形式である四肢択一形式の客観問題に習熟するとともに、常に 60%以上の正解率を得ることを目的とする。したがって、SBOS は各試験で 60%以上の点数を獲得することである。				
【テキストおよび参考書】 教科書 『2024年 歯科技工士国家試験対策問題集』 全国歯科技工士教育協議会 編集 医歯薬出版 参考書 『歯の解剖学』、『有床義歯技工学』、『歯冠修復技工学』、『顎口腔機能学』、『矯正歯科技工学』、『小児歯科歯技工学』、『歯科理工学』および『関係法規』の教科書と実習帳				
【講義、試験の方法・形式】 講義、試験の概要は授業計画に示すが、各科目の講義に必要なもの、試験の出題範囲および再試験の日程などの詳細は、オリエンテーションで別紙を配布する。 講義は学説国家試験対策として、各教科の教科書の内容に従って、板書、プリント、画像提示および模擬試験を行う。 試験は専門基礎分野（歯科理工学、歯の解剖学、関係法規、顎口腔機能学）と専門分野（有床義歯技工学、歯冠修復技工学、小児歯科技工学、矯正歯科技工学）に分けて行う。 試験とは別に総合試験を3回行い、国家試験と同様に全教科を同日に行う。				
回	日程	時間	演習項目	到達目標(SBOs)
1	4/9	13:00-14:30	関係法規、歯科理工学 歯の解剖学、有床義歯技工学	学説国家試験の出題基準を理解して、過去問題が正答できる
2	4/16	13:00-14:30	A科目 第1回試験	60%以上の正解率を得ることができる
3	4/26	13:00-14:30	関係法規、 有床義歯技工学	学説国家試験の出題基準を理解して、過去問題が正答できる。
4	5/10	13:00-14:30	歯科理工学、歯の解剖学	学説国家試験の出題基準を理解して、過去問題が正答できる
5	5/17	13:00-14:30	A科目 第2回試験	60%以上の正解率を得ることができる
6	5/24	13:00-14:30	矯正歯科技工学	学説国家試験の出題基準を理解して、過去問題が正答できる
7	5/28	13:00-14:30	顎口腔機能学	学説国家試験の出題基準を理解して、過去問題が正答できる
8	5/31	13:00-14:30	小児歯科技工学	学説国家試験の出題基準を理解して、過去問題が正答できる
9	6/4	13:00-14:30	歯冠修復技工学	学説国家試験の出題基準を理解して、過去問題が正答できる
10	6/11	13:00-14:30	B科目 第1回試験	60%以上の正解率を得ることができる
11	6/18	13:00-14:30	矯正歯科技工学	学説国家試験の出題基準を理解して、過去問題が正答できる
12	6/25	13:00-14:30	顎口腔機能学	学説国家試験の出題基準を理解して、過去問題が正答できる
13	7/2	13:00-14:30	小児歯科技工学	学説国家試験の出題基準を理解して、過去問題が正答できる
14	7/9	13:00-14:30	歯冠修復技工学	学説国家試験の出題基準を理解して、過去問題が正答できる
15	7/16	13:00-14:30	矯正歯科技工学	学説国家試験の出題基準を理解して、過去問題が正答できる
16	9/10	13:00-14:30	顎口腔機能学	学説国家試験の出題基準を理解して、過去問題が正答できる
17	9/10	14:45-16:15	小児歯科技工学	学説国家試験の出題基準を理解して、過去問題が正答できる
18	9/17	13:00-14:30	歯冠修復技工学	学説国家試験の出題基準を理解して、過去問題が正答できる
19	9/17	14:45-16:15	B科目 第2回試験	60%以上の正解率を得ることができる
20	9/24	13:00-14:30	小児歯科技工学 矯正歯科技工学	学説国家試験の出題基準を理解して、過去問題が正答できる。
21	9/24	14:45-16:15	顎口腔機能学 関係法規	学説国家試験の出題基準を理解して、過去問題が正答できる。
22	10/1	13:00-14:30	有床義歯技工学	学説国家試験の出題基準を理解して、過去問題が正答できる
23	10/1	14:45-16:15	歯冠修復技工学	学説国家試験の出題基準を理解して、過去問題が正答できる
24	10/8	13:00-14:15	歯科理工学	学説国家試験の出題基準を理解して、過去問題が正答できる

回	日程	時間	演習項目	到達目標(SBOs)
25	10/8	14:45-16:15	歯の解剖学	学説国家試験の出題基準を理解して、過去問題が正答できる
26	10/22	13:00-14:30	第1回総合試験-1	60%以上の正解率を得ることができる
27	10/22	14:45-16:15	第1回総合試験-2	60%以上の正解率を得ることができる
28	10/29	13:00-14:30	第1回総合試験 解説	解説を聞き、不正解だった問題の正解を理解できる
29	10/29	14:45-16:15	小児歯科技工学 矯正歯科技工学	学説国家試験の出題基準を理解して、過去問題が正答できる。
30	11/5	13:00-14:30	歯科理工学 関係法規	学説国家試験の出題基準を理解して、過去問題が正答できる。
31	11/5	14:45-16:15	有床義歯技工学	学説国家試験の出題基準を理解して、過去問題が正答できる
32	11/12	13:00-14:30	歯の解剖学 顎口腔機能学	学説国家試験の出題基準を理解して、過去問題が正答できる。
33	11/12	14:45-16:15	歯冠修復技工学	学説国家試験の出題基準を理解して、過去問題が正答できる
34	11/19	13:00-14:30	第2回総合試験-1	60%以上の正解率を得ることができる
35	11/19	14:45-16:15	第2回総合試験-2	60%以上の正解率を得ることができる
36	11/26	13:00-14:30	第2回総合試験 解説-1	解説を聞き、不正解だった問題の正解を理解できる
37	11/26	14:45-16:15	小児歯科技工学 矯正歯科技工学	学説国家試験の出題基準を理解して、過去問題が正答できる。
38	12/3	13:00-14:30	歯科理工学	学説国家試験の出題基準を理解して、過去問題が正答できる
39	12/3	14:45-16:15	有床義歯技工学	学説国家試験の出題基準を理解して、過去問題が正答できる
40	12/10	13:00-14:30	歯の解剖学	学説国家試験の出題基準を理解して、過去問題が正答できる
41	12/10	14:45-16:15	小児歯科技工学	学説国家試験の出題基準を理解して、過去問題が正答できる
42	12/17	13:00-14:30	第3回総合試験-1	60%以上の正解率を得ることができる
43	12/17	14:45-16:15	第3回総合試験-2	60%以上の正解率を得ることができる
44	1/6	13:00-14:30	第3回総合試験 解説-1	解説を聞き、不正解だった問題の正解を理解できる
45	1/6	14:45-16:15	まとめ	国家試験に出題される8科目で60%以上の正解率を得ることができる

【評価方法】

試験と総合試験で評価する。

【留意事項】

試験は、A科目(歯科理工学・歯の解剖学・有床義歯技工学・関係法規)とB科目(歯冠修復技工学・顎口腔機能学・小児歯科技工学・矯正歯科技工学)に分けて行う。

講義、試験日程等は状況により変更されることがあり、その場合は、別紙にて告知する。

試験は各科目の60%未満(端数は四捨五入)の点数を不合格とする。

試験を病気などの理由で欠試した場合は追試験を受験しなければならない。追試験に合格した者は60%の点数を試験の評価点とし、不合格者は追試験の点数を評価点とする。

試験の不合格者は再試験を受験しなければならない。再試験に合格した者は60%の点数を試験の評価点とし、不合格者は再試験の点数を評価点とする。

追試験、再試験を欠試した者の評価点は0点とする。

追試験、再試験はマルチパーパスアワーなどの時間外に行う。

総合試験は追試験、再試験を行わない。

総合試験を欠試した者の評価点は0点とし、60%未満の者はその点数を評価点とする。

【授業以外の学習方法】

試験の模範解答が結果の発表時に掲示されるので、誤解答した問題と同様の問題が出題されたときには正解できるように必ず復習する。

歯科技工士国家試験問題集・解答集、新 注解 歯科技工士国家試験問題集およびその他の問題集を積極的に活用する。

問題の解答、勉強方法などについて質問がある場合は、各科目の担当者が随時対応するので気軽に質問してほしい。

【連絡先】

塚本文隆 tsuka55@dpc.agu.ac.jp
宮地 寮 ryo0430@dpc.agu.ac.jp
吉田唯花 yoshi104@dpc.agu.ac.jp

【オフィスアワー】

塚本文隆 宮地 寮 吉田唯花 随時 歯科技工専門学校 教員室

【実務経験】

塚本文隆 宮地 寮 吉田唯花 歯科技工士

有床義歯の歯科技工（実習）

担当教員	歯科技工専門学校 助手 宮地 寮 非常勤講師 中川貴博		単位数（時間数）	3（135時間）
主な実習場所	薬学部棟 3F 基礎実習室		時間割番号	203SA3536
【目的】（GIO） 1年生で学習した有床義歯を製作するための技工理論、各種材料や器具の使用方法などを復習し、製作過程を反復練習することで技工術式に関する知識、技術および態度を身に付けるとともに応用力を培う。 また、歯科技工の基本的技術である歯型彫刻を行うことで歯冠形態を理解する。				
【教科書および参考書】 教科書 『有床義歯技工学—全部床義歯の技工実習—』 愛院大歯技 編集 参考書 『最新歯科技工士教本 有床義歯技工学 第2版』 全国歯科技工士教育協議会 編集 医歯薬出版 『コンプリートデンチャーテクニク』 医歯薬出版 『パーシャルデンチャーテクニク』 医歯薬出版 『歯科技工学用語集』 日本歯科技工学会 編集 医歯薬出版				
【実習の方法・形式】 示説された実習方法で全部床義歯、部分床義歯の各種製作過程の作品を製作し、ステップ毎に指導者の検印を受ける。				
回	日時	実習項目	到達目標（SBOs）	
1	4/5 8:40-11:55	フレームワークの製作-1	金属床義歯の特徴、製作法が説明できる。 フレームワークの製作手順が説明できる。 作業用模型耐火模型が製作できる。	
2	4/12 8:40-11:55	フレームワークの製作-2	作業用模型をサベイングし、設計線が記入できる。	
3	4/19 8:40-11:55	フレームワークの製作-3	耐火模型にフレームワークのワックスアップができる。	
4	4/26 8:40-11:55	フレームワークの製作-4	フレームワークのワックスアップの不良個所を修正できる。 フレームワークのワックスアップが完成できる。	
5	5/10 8:40-11:55	フレームワークの製作-5	フレームワークの埋没ができる。	
6	5/17 8:40-11:55	フレームワークの製作-6	フレームワークの鋳造ができる。	
7	5/24 8:40-11:55	フレームワークの製作-7	フレームワークの研磨ができる。 CADソフトを操作してフレームワークの設計ができる。	
8	5/31 8:40-11:55	部分床義歯-1 屈曲法による支台装置	屈曲法による支台装置の製作順序が説明できる。 模型に屈曲の前準備ができる。 線鉤を屈曲し、研磨できる。	
9	6/7 8:40-14:30	部分床義歯-2 鋳造法による支台装置	鋳造法による支台装置の製作順序が説明できる。 模型にワックスアップの前準備ができる。 各種鋳造鉤のワックスアップができる。	
10	6/14 8:40-14:30	屈曲法・鋳造法による支台装置	製作した作品を点検し、不良個所が修正できる。 製作した作品が提出できる。	
11	6/21 8:40-14:30	全部床義歯-1 人工歯排列	人工歯排列、歯肉形成の手順を理解し各工程が説明できる。 標準的な人工歯排列ができる。	
12	9/17 8:40-11:55	全部床義歯-2 義歯の設計 咬合器装着前準備	作業用模型に床外形線、歯槽頂線が記入できる。 咬合堤に標準線が記入できる。 スプリットキャスト法で咬合器装着の前準備ができる。	
13	9/24 8:40-11:55	全部床義歯-3 咬合器装着	スプリットキャスト法で咬合器装着ができる。 人工歯の各部位の名称が説明できる。	

回	日時	実習項目	到達目標(SBOs)
14	10/1 8:40-11:55	全部床義歯-4 人工歯排列	人工歯排列、歯肉形成の手順を理解し各工程が説明できる。 標準的な人工歯排列ができる。
15	11/11 8:40-16:15	全部床義歯-5 人工歯排列	標準的な人工歯排列ができる。
16	11/18 8:40-16:15	全部床義歯-6 人工歯排列	標準的な人工歯排列ができる。
17	11/25 8:40-16:15	全部床義歯-7 歯肉形成	標準的な歯肉形成ができる。
18	12/2 8:40-16:15	全部床義歯-8 歯肉形成・完成	標準的な歯肉形成ができる。 蝋義歯を点検し、不良個所が修正できる。 製作した蝋義歯を点検し、不良個所が修正できる。
19	12/9 8:40-16:15	全部床義歯-9 反復練習	人工歯排列、歯肉形成が2時間 30分で製作できる。 蝋義歯を点検し、不良個所が修正できる。
20	12/13 8:40-16:15	全部床義歯-10	蝋義歯を点検し、不良個所が修正できる。 反復練習のために咬合床が修正できる。
21	12/16 8:40-16:15	全部床義歯-11 反復練習前準備	人工歯排列、歯肉形成が2時間 30分で製作できる。 製作した蝋義歯を点検し、不良個所が修正できる。
22	12/20 8:40-16:15	全部床義歯-12 反復練習	製作した蝋義歯を点検し、不良個所が修正できる。 反復練習のために咬合床が修正できる。
23	1/7 8:40-16:15	全部床義歯-13 反復練習	人工歯排列、歯肉形成が2時間 30分で製作できる。 製作した蝋義歯を点検し、不良個所が修正できる。
24	1/8 8:40-16:15	全部床義歯-14 反復練習	製作した蝋義歯を点検し、不良個所が修正できる。
【評価方法】 製作品の採点と実習態度を総合的に評価する。			
【留意事項】 実習内容を把握し、実習に用いる機械器具の準備、整備および後片付けを怠らない。 白衣、頭髪を整え、医療関係職種を学ぶ者としての身体の衛生確保、向上に留意する。 実習室では上履きを着用し、実習に必要なもの以外は実習室に持ち込まない。 製作品は定められた各ステップで指導教員の検印を受け、提出期日を厳守する。			
【授業以外の学習方法】 積極的に図書館等で関連する書を読み、調べる。 実習時間以外にも随時対応するので、気軽に質問してほしい。			
【連絡先】 宮地 寮 ryo0430@dpc.agu.ac.jp 中川貴博 授業の前後 または、担任まで			
【オフィスアワー】 宮地 寮 随時 歯科技工専門学校教員室			
【実務経験】 宮地 寮 中川貴博 歯科技工士			